

平成27年度第4回下関市公立大学法人評価委員会議事【要旨】

平成27年8月10日(月)14:00~15:20

下関市立大学本館 5階 大会議室

下関市公立大学法人評価委員会 : 野口委員長、江里委員、中野委員、藤上委員、佐藤委員

公立大学法人下関市立大学 : 荻野理事長、吉津学長、中嶋学部長、佐々木事務局長

1. 開会のことば

2. 議事

(1) 平成26年度評価結果書(原案)について

評価結果書(原案)について、事務局が全体表及び項目別評価の説明を行い、事務局案のとおり承認され、評価結果書(原案)として決定された。

(2) 財務諸表等の承認について

財務諸表の承認については、「特に意見の申し出はない。」ものとして決定した。

(3) 剰余金の使途の承認について

承認を受けようとする金額が法人の経営努力によるものと認められるため、「異議なし」として決定した。

(4) その他

委員長

業務実績報告書には関連事項がなく記載はないが、平成27年3月に大学院経済学研究科学生が作成した「特定の課題についての研究の成果」の審査結果の情報が下関市立大学以外の者に発表前に漏れていたと、理事長が説明された。

今回の事柄が一生懸命やっている教職員にどれほどの迷惑を掛けるのかということをし、しっかり大学側も受止めていただきたい。

こういうことはあってはならないことで、教職員一人ひとりが意識改革をしていただき、行動改革をしていただく必要がある。

評価委員会としては、情報を漏らさないということは基本中の基本だと思う。

そのためには、理事長、学長の強力なリーダーシップが必要であり、そういったものがあれば、こういった事柄は解消されていくのではないのか。

ここ何年かおきに、市立大学では新聞沙汰になるような、世間の方が聞いたら恥ずかしいような内容の事柄が起きている。

理事長、学長のリーダーシップに期待する。

もう1点は、地域貢献に関する目標で、我々も他の大学の改革の進捗状況などを確認するために視察に行っている。

その大学の評価委員や、役員、教職員とも話をしたが、地域貢献ということに非常に神経質なぐらいで、それぞれ頑張っている。

「うちの大学の生命線です。」「命です。」というようなことを言う学校もある。

私たちが行った大学はほとんど県立大学でしたが、県立大学は結構広く色々なことをしている。

ただ、市立大学は言うほど下関市の方で活動しているのかというと、少なくとも我々が他の大学に行って聞いてきた範囲、あるいは対談した範囲では、学長が言うほど、下関市でもそれほど進んでないのではないかと思います。

また、理事長の言われるように、下関市以外で下関市民の税金を利用することに市民の理解を得るのはかなりの労力を要するということも良く分かる。

理事長	<p>本学にとっても極めて重要なご指摘であると考えている。</p> <p>情報漏洩に関しては、あってはならないことが生じてしまったということで、誰かが情報を漏らしたことだけは間違いのないわけで、改めて反省を迫ると同時に、もし心ある方であれば申し出てくれるように、関係している人たちだけでなく、大学の教職員にそういう呼びかけをしたい。</p> <p>情報漏洩に関して、かなり色々な情報が実はメディアに公表されている。「守秘義務ですよ」と言っているものが情報として流れることは、これまでもあった。その度に、注意をお願いしているが、改めて情報管理、情報漏洩に関しては絶対にないようにお願いしたいと思う。</p> <p>2点目の地域連携、地域貢献に関しましては、下関市の公立大学ということ为前提としつつ、これまで十分に地域貢献ができていたかと言われると、多くの委員の方々、また議員の方々からもそういうご指摘を度々受けている。</p> <p>色々な形で地域貢献をしているが、あまり多く知られていないということも含めて、情報の発信に努めると同時に、十分でないというご指摘を真摯に受止めまして、色々な形で地域貢献を進めていきたい。</p> <p>しかし、色々な形の地域連携の結び方があると思うので、その辺も検討していきたいと思う。</p>
委員長	<p>これはいい機会である。</p> <p>これをもって体質を改善するのだという気概を学長が持って欲しい。</p> <p>どう考えても、投票結果等の経緯までが事前に漏れているので、学内から漏れたことは分かりきったことである。</p> <p>いい機会ですから、ある程度決め付けてもいいのではないかと。</p> <p>学内には厳格に「こういうことがあってはダメだ。」という形の対応をすべき。</p> <p>こういうことは、例え、爪の垢ほどの噂があってもいけない。</p> <p>学校の揺るがすことになりかねない。</p> <p>一生懸命される教職員もおられるわけで、是非、そういう捉え方をして欲しい。</p>
学長	<p>学内の教員に対して、こういうことは絶対にあってはならないと徹底的に、事あるごとに言っている。</p>
委員長	<p>それを正す委員会のようなものはあるか。</p> <p>それは、理事長、学長しかないのか。</p>
学長	<p>そういうことがないように研修とか、事あるごとにやって、それを徹底しようという体制でやっている。</p>
委員長	<p>法令遵守は当たり前のこと。</p> <p>強くお願いしたい。</p>
委員	<p>こういうことは、市立大学の卒業生として非常に嫌である。</p> <p>誰も名乗りでないというところも。</p> <p>もし、そういう方が教壇に、生徒の前に立たれているのであれば、現役生にとっては悲劇だと思う。</p> <p>この前からの議論を聞きながら非常に残念に思っている。</p>
学長	<p>おそらく、教員みんな、そう思っていると思う。</p> <p>それでも分からない。</p> <p>なぜ、こういうことが起こるのか。</p>
委員	<p>審査や、それに携わることをしてきた者からしか、マスコミの人間も知ることができないと思う。</p> <p>それ以外、常識的に考えても考えられない。</p> <p>OBと会うと言われるのは、「非常に残念だ。」東京に移住している人間も、笑いものになっているみたいだ。</p> <p>そういった話を直接聞いたりするので、そこはきちんと探していただきたい。</p>
委員長	<p>学長も分かっていることだとは思いますが、改革と言うのは非常に色々な苦しみや、痛みや、抵抗がある。</p>

それらを引き受けていってこそ、初めて学校がきちんと残れる。

今はそんな時代だと思う。

中途半端なことをして、改善や改革が失敗するようなことがあれば、そんな学校には生徒は来たくない。

それと同時に、そういう学校は必然的に淘汰されるのではないか。

その辺の危機感を教職員に、しっかりと意識してもらって、学長の強力なリーダーシップをお願いしたい。

3 . 閉会のことば